

〔 横浜市芸能センター 横浜にぎわい座 〕
 平成25年度業務報告及び収支決算
 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業。○：共催事業
 を示します。
 ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、
 □：定量的指標。■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所在地	横浜市中区野毛町 3-110-1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上13階建の地下2階から地上4階及び地上5階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 4358.97㎡
開館日	平成14年4月13日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル 1 階
代表者	理事長 澄川 喜一
代表者設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

大衆芸能の伝統を受け継ぎ、その潮流にも視座を置きながら更なる発展を目指しました。上半期には日ノ出町生まれの作家・長谷川伸を題材とした事業を実施し、独創的な内容がメディアにも広く紹介されました。さらに地域文化資産の顕彰を通して、野毛・日ノ出町地域の方々との交流や、中央図書館等の他施設・組織との連携を深めました。

広報活動においては、前年の開場十周年記念事業における取り組みを活かしつつ、前年度リニューアルしたWebサイトも活用しながら、より幅広い顧客層への訴求力向上に努めました。

また大佛次郎記念館と連携した大佛没後40周年の展示事業や、市内福祉施設と連携したアウトリーチ事業などにも意欲的に取り組みました。

(2) 25年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 事業の総括

毎月1日～15日の常打ち公演を中心に安定した運営で事業を開催しました。大衆芸能の潮流を見据えながら落語各派の演者を中心にバランスよく顔付けし、より幅広い方々にお楽しみいただけるような公演の開催に努めました。未来の大名人を紹介するべく独自の視点でじっくり取り組んでいる独演会シリーズの出演者から、平成25年度で三年連続となる芸術選奨受賞者が出たことも、大きな喜びとなりました。若手育成事業においては新たな若手実演家数名の支援に着手しました。

没後50年を迎える長谷川伸の顕彰事業を開催し、地域の文化資源発信、地域市民との交流推進、新聞各紙をはじめとするメディアとの関係強化、他施設・組織との連携を進めました。

その他、公民のさまざまな施設や組織との連携によるアウトリーチ公演が充実した一年でもありました。

② 施設運営の総括

より使いやすく施設をご利用いただけるよう事前相談や利用当日の支援を行うとともに、次の公演でも再度にぎわい座をご利用いただけるよう積極的に働きかけ、リピーターの獲得に努めました。さらに施設見学会の開催やWebサイトにおける施設空き情報の公開など、さまざまな手法で新規利用者獲得に努めました。

③ 施設管理の総括

舞台吊物機構と音響設備の大規模な更新が横浜市により行われたため、それらがスムーズに実施されるよう様々な調整を行いました。また経年劣化でさまざまな不具合が生じる中、迅速かつ適切な対応を行いました。

④ その他の総括

にぎスタの配置や光熱水費、委託費など徹底した経費削減を行うとともに、採算性を基準に主催公演の収支バランスを見直し、課題となっている収支改善に取り組みました。

また、防災計画を震災時の状況を想定したものに今年度も再改定し、同じ訓練を複数回繰り返すなどの取り組みにより、対応能力の向上に努めました。

4 自主事業についての達成状況

(1) 鑑賞機会提供の安定的開催と充実について(鑑賞機会提供事業)

[目指す成果]

「にぎわい座ならではの」多彩な公演の経常的な開催により、多くの方が気軽に大衆芸能を楽しんでいただける場とします。入場料収入が事業経費を上回る、安定的で継続性の高い収支構造とします。

[成果についての振り返り]

寄席の基本となる有名会や人気が高い独演会シリーズをはじめ、独自性ある企画公演から若手による勢いある公演など幅広く親しみやすい内容で、達成指標を上回る262公演を実施しました。入場者数は達成指標を越えたものの、事業収支については課題が残りました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>横浜にぎわい座 経常事業</p> <p>芸能ホール公演:原則として毎月1日～15日</p> <p>小ホール公演:毎月月後半に2回程度</p> <p>●『横浜にぎわい座 有名会』(毎月7回開催)</p> <p>気軽に来場できて、情緒溢れる“寄席”の雰囲気を感じられる寄席形式の公演。</p> <p>●『にぎわい座 名作落語の夕べ』(毎月1回開催)</p> <p>真打の落語家4名が古典落語1席ずつ口演。</p> <p>●『横浜にぎわい座 企画公演(演芸バラエティ)』</p> <p>落語・漫才・コントから喜劇や軽演劇等まで、幅広くバラエティに富んだ大衆芸能公演を日替わりで提供。</p>	<p>□年間230公演以上の公演</p> <p>□入場者月平均3,500名</p> <p>有名会・名作90名+企画公演2,600名</p> <p>□団体提携・団体優待</p> <p>24年度に実施した各種団体優待の継続</p> <p>新規の提携・販促ルートの開拓:年間5件以上</p>	<p>□年間262公演を実施。</p> <p>□入場者月平均3,865名</p> <p>有名会・名作1,097名+企画公演2,768名</p> <p>□新規の提携・販促ルートの開拓:年間6件</p> <p>■前年度までの各種団体への優待を継続するとともに、購入頻度の高い団体客への営業活動等によりリピーターの継続にも留意しました。</p>

(2) にぎわい座からの創造発信について(創造発信事業)

<p>[目指す成果]</p> <p>大衆芸能の伝統を踏まえつつ、にぎわい座の独自性を加味した企画を実施することで、過去から未来へ続く大衆芸能の潮流の一端を担います。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>平成25年度上四半期は、日ノ出町出身の大衆文学作家・長谷川伸の没後50年記念公演と展示に取り組み、地域の文化資源発信、地域市民との交流推進、メディアとの関係強化、他施設や組織との連携推進などの成果を得ました。</p> <p>また桂歌丸館長による独演会「語り直して 三遊亭圓朝作 怪談真景累ヶ淵」は、名人独自の視点から古典の名作に取り組み、大衆芸能の伝統を今に活かしながら新たな潮流をも生み出す創造的な公演となりました。</p>
--

<p>[取組内容]</p> <p>●『長谷川伸没後50年記念公演』 横浜生まれで大衆演劇に縁の深い作家 長谷川伸の没後50年を記念した企画。</p> <p>●『桂歌丸 語り直して 三遊亭圓朝作 怪談 真景累ヶ淵』(年2回開催)</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□『長谷川伸没後 50 年記念公演』 入場者数:250 名以上</p> <p>□『桂歌丸 語り直して 三遊亭圓朝作 怪談 真景累ヶ淵』 入場者数:各回 300 名以上</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□『長谷川伸没後50年記念公演』として、7月に「落語と節劇でふりかえる長谷川伸」を開催しました(入場者数357名)。また公演に加え、6月から7月にかけて展示企画「長谷川伸とふるさと横浜」をあわせて開催しました。</p> <p>■長谷川伸の記念事業実施にあたっては、横浜が生んだ大衆文学の大家・長谷川伸の業績を幅広く発信し多数のメディアにも紹介されました。</p> <p>また、野毛・日ノ出町地域の方々の広報協力を得るとともに、地域市民から地域の古い写真の提供を受け展示するなど、交流を深める機会となりました。</p> <p>同事業を通して、横浜開港資料館、早稲田大学演劇博物館、前進座劇場等とも交流が進んだ他、横浜市中心図書館や横浜シティガイド協会とは連携事業も実施しました。</p> <p>□6月に開催した『桂歌丸 語り直して 三遊亭圓朝作 怪談 真景累ヶ淵』第四話「勘蔵の死」第五話「お累の自害」は、過去の名作に新たな命を吹き込み、後世に継承していく創造的な取組みとなりました(入場者数352名)。</p> <p>なお、当初は年2回を予定していましたが、出演者の都合により、平成25年度は1回の実施となりました。</p>
---	--	--

(3) にぎわい座を拠点とした若手実演者の育成について(育成事業)

<p>[目指す成果]</p> <p>若手実演者に研鑽の場を提供し、大衆芸能の未来を担う「将来の名人」の誕生に寄与することで、大衆芸能界全体の発展に貢献します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>のげシャレーに於ける「登竜門シリーズ」は達成指標を上回る公演を開催しました。春風亭百栄、三遊亭兼好、三遊亭王楽、春風亭一之輔、古今亭文菊など、今や落語界の中心で活躍する出演者の公演を徐々に芸能ホールへ移行させつつ、平成 25 年度も桂宮治や立川こはるなどの新シリーズを立ち上げ、若手演芸家に研鑽と飛躍の場を提供し、公設演芸場としての役割の一端を担いました。</p> <p>また毎月7日間開催している有名会は、落語協会と落語芸術協会の前座が互いに交流し切磋琢磨しあう唯一の場でもあり、前座修行の貴重な機会として活用しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●『登竜門シリーズ in のげシャレー』 小ホールで開催する若</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□『登竜門シリーズ in のげシャレー』 年間 12 回以上の開催</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□『登竜門シリーズ in のげシャレー』 年間 25 回開催</p> <p>■『登竜門シリーズ in のげシャレー』の新規シリ</p>

<p>手実演者による公演。</p> <p>●『横浜にぎわい座 企画公演(演芸バラエティ)』 小ホールでの若手育成公演出演者の登用。</p> <p>●『坂あがりスカラシップ』 急な坂スタジオ・STスポット横浜とのネットワークにより、新進芸術家の作品制作及び発表を継続的に支援する事業。</p>	<p>□『横浜にぎわい座 企画公演(演芸バラエティ)』 年5回以上の実施 上記公演の入場者数: 各回100名以上</p> <p>□『坂あがりスカラシップ』 継続支援対象者公演の実施(1公演以上) 新規支援対象者の選定(2組程度)</p>	<p>ーズとして「よこはま宮治展」と「立川こはる落語会」をスタートしました。</p> <p>□『横浜にぎわい座 企画公演(演芸バラエティ)』 年8回開催 上記公演の入場者数:平均入場数137名</p> <p>■『坂あがりスカラシップ』 継続支援対象者の公演開催を3月に予定していましたが、対象者の理由により開催を見合わせました。自身と作品に対峙する過程で、内面的な変化が生じたためであり、若いアーティストの活動支援という本来の事業目的に立ち返り、対象者を交えた定期的なミーティングや、活動の様子を伝えるコラムのWebサイトでの発信などを行いました。</p> <p>また、新規支援対象者の公募を行い22件の応募がありましたが、本事業に相応しい支援対象者が見いだせず、今回は該当者無しとしました。本事業のあり方については、発展的過渡期と捉えつつ、次年度に向け主催3団体で協議を続けています。</p> <p>「坂あがりスカラシップ」を発信するために、これまでの活動をまとめたアーカイブサイト「坂あがりスカラシップのこと」を製作・公開しました。</p>
---	--	--

(4) 多様な世代に向けた教育普及活動の拡充について(体験・学習事業)

<p>[目指す成果]</p> <p>子どもを対象とした大衆芸能の教育・体験プログラムを通じて、創造力の育成に貢献します。また、大衆芸能の魅力に触れることで、それを身近なものと感じる層を拡大します。</p> <p>外部の組織や施設等との連携した講座等の企画により、幅広い層に大衆芸能や寄席の魅力を普及します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>小学生を対象とした「学校プログラム」や「寄席体験プログラム」、一般向けの「寄席文字体験教室」、大学生から社会人を対象とした「野毛まちなかキャンパス」、みなとみらい地区の就業者を対象とした「寄席体験企画」など、幅広い層を対象として大衆芸能の魅力に触れる機会を提供しました。</p>

<p>[取組内容]</p> <p>○『横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム』</p> <p>●『寄席体験プログラム』 西区・中区の小学生を対象に、芸能ホールで【寄席文化】を体験してもらう公演。</p> <p>●『大衆芸能関連講座』 全年齢に向けて、経常企画と連動したレクチャー企画や体験講座を実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□『横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム』 コーディネートの実施(2校以上)</p> <p>□『寄席体験プログラム』 参加者：1,500名以上</p> <p>□『大衆芸能関連体験講座』 講座の実施(年間3企画以上)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□市内小学校1校で落語のプログラムを実施 (3日間/3クラス112名参加) プロの落語家による落語・小咄の実演とレクチャーの後に、児童全員が練習、発表を行いました。 なお、横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局から横浜にぎわい座へのコーディネート依頼が平成25年度は1校のみとなりました。</p> <p>□市内中学校の落語鑑賞会の制作 2件</p> <p>□『寄席体験プログラム』は、6月と10月で合計7日間開催し17校1,708名の生徒が参加</p> <p>□『大衆芸能関連体験講座』 年間3企画の講座を実施 8月「寄席文字体験教室」(一般向け) 10月「寄席体験企画」(みなとみらい地区就業者対象) 12月「野毛まちなかキャンパス」(大学生と社会人対象)</p>
---	---	--

(5) 連携による大衆芸能振興の展開について(連携事業)

<p>[目指す成果]</p> <p>地元の団体等と協働することで、大衆芸能を通じた地域の賑わいづくりに貢献します。 財団が運営する施設間の連携による、ジャンルを超えたプロモーションや顧客開拓を通じて、芸術文化のすそ野の拡大に寄与します。また、連携により、多彩なアートを活用した横浜市の魅力の向上に貢献します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>野毛地区街づくり会との良好な関係を保ちながら、野毛大道芸や野毛まちなかキャンパスに参加し、地域発の大衆芸能振興に寄与しました。また大佛次郎没後40周年を記念して、大佛次郎記念館と連携した展示事業を開催し、ジャンルを超えた新しい来館者の獲得に繋がりました。またそごう美術館と連携し、同美術館の展示室内で桂歌丸独演会を開催しました。</p> <p>プロモーションにおいては財団が発行するヨコハマ・アートナビ(紙およびWeb)や、WEBマガジン創造都市横浜等にも情報を掲載し、多様な施設運営に関わる財団の特徴を活かした顧客開拓に努めました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>○『野毛大道芸』『野毛まちなかキャンパス』への参加 地域の団体・組織が開催する芸術文化を活用して、地域の活性化を図る企画。</p> <p>●『専門施設間連携プロジ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□『野毛大道芸』『野毛まちなかキャンパス』 ・『野毛大道芸』への展示会場他の提供 (1回以上) ・『野毛まちなかキャンパス』 講座開催(1回以上)、会場提供(2回以上)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■『第39回 野毛大道芸』と『野毛大道芸2013 オータム フェスティバル』の開催に協力しました。</p> <p>□『野毛大道芸フォトコンテスト2013秋』 展示会場提供(1回)</p> <p>□『野毛まちなかキャンパス』 講座開催(2回) 会場提供(1回)</p> <p>■『専門施設間連携プロジェクト』</p>

<p>エクト』</p>	<p>□『専門施設間連携プロジェクト』 各専門施設担当者ミーティング定期開催 (6回以上)</p>	<p>専門施設間連携という括りでの定期会議は開催されませんでした。実務担当者間では財団の他の会議やプロジェクト(子ども事業企画会議等)の際に積極的な情報交換を行いました。</p> <p>■大佛次郎記念館と連携した展示事業「大佛次郎と落語」を、9月から10月にかけて開催しました。</p> <p>■そごう美術館の展示事業「幽霊妖怪画展」と連携し桂歌丸独演会を同美術館展示室内にて開催しました。</p>
-------------	---	---

(6) 大衆芸能に関わる市民活動への支援について(市民協働による事業や運営の展開)

<p>[目指す成果] 大衆芸能の魅力を多方面で活用し、地域の活動・イベントとの連携等、幅広く対応できる「コーディネート・相談」機能を稼働させ、市民の多様な活動をサポートします。</p> <p>[成果についての振り返り] 平成25年度は、各所から受けた相談・依頼がさまざまな取り組みへと具体化されました。多様なアウトリーチ事業の経験が双方のノウハウとして蓄積されました。中区役所および区内の銭湯と連携した落語会、西区の福祉施設と連携して開催した落語会などは、他施設との連携事業としても有意義な取り組みとなりました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●『大衆芸能「コーディネート・相談」機能 にぎわい座が蓄積する大衆芸能の情報・ノウハウを、市民活動に幅広く活用してもらうため、情報発信・提供機能を強化します。</p> <p>○(再掲)『野毛大道芸』『野毛まちなかキャンパス』</p> <p>○野毛地区街づくり会「にぎわい座利用促進委員会」と協働して地域での市民活動を支援</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□『大衆芸能「コーディネート・相談」機能』 他の施設や組織へ情報やノウハウの提供、企画制作への協力(年間10件以上)</p> <p>■『野毛大道芸』『野毛まちなかキャンパス』 広報協力や、展示やレクチャー企画への会場提供を行い、地域の賑わいづくりに寄与します。</p> <p>□街づくり会利用枠での利用数(5公演以上)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□『大衆芸能「コーディネート・相談」機能』 他の施設や組織へ情報やノウハウの提供、企画制作への協力：年間11件 中区役所および本牧ゆあそび館と連携した「銭湯寄席」(年3回)や、西区の障がい者就労支援施設「生活創造空間にし」と連携した「にぎわい&にしよこ寄席」(年2回)の開催をはじめ、貸館で開催される落語会の主催者へのアイデア提供や開催方法の支援、みなとみらいで実施される神奈川大学KUポートスクエア公開講座への協力(年2回)など、大衆芸能に関するさまざまなコーディネート・相談機能を発揮しました。</p> <p>■「第39回 野毛大道芸」と「野毛大道芸2013 オータム フェスティバル」への開催協力と、「野毛大道芸フォトコンテスト2013」へ展示会場を提供しました。また、11月から1月にかけて開催された「野毛まちなかキャンパス」の中で、横浜にぎわい座企画の講座開催(2回)と、会場の提供(1回)行うとともに、広報面での協力を行いました。</p> <p>□野毛地区街づくり会傘下の横浜にぎわい座利用促進委員会と連携し、共催事業として「ノゲ・ジャム・</p>

		フェスティバル」「邦楽おもしろセミナー」「野毛地区カラオケ大会」など5公演を開催。地域のにぎわい創りと、地域交流推進に寄与しました。
--	--	--

(7) 大衆芸能情報センターとしての情報拠点化について

<p>[目指す成果]</p> <p>大衆芸能に関連する公演情報を継続的、多角的に収集・蓄積・発信することで、大衆芸能の魅力が幅広い層に伝わり、大衆芸能の普及・認知度を向上させます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>2階の情報コーナーでは、大衆芸能に関する多様な展示事業を無料で開催するとともに、施設内外の大衆芸能公演等に関するチラシやポスターなどを多数配架・掲出し、来館者にさまざまな情報を提供しました。落語会の開催方法や落語家とのコンタクトの取り方などの問合せに対しては、これまで蓄積されたノウハウを活用しながら丁寧な情報提供に努めました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『情報コーナーでの大衆芸能情報の提供』 ●『大衆芸能「コーディネート・相談」』機能 ●『電子大福帳の活用』 主催公演の情報(公演日、演者、ネタ等)を「電子大福帳」へ入力・蓄積していきます。 ●『展示事業』 2階情報コーナーでの大衆芸能資料を中心とした「常設展」「企画展」の開催。 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■『情報コーナーでの大衆芸能情報の提供』 大衆芸能関連の配布物を、公演の開催地域や形態を問わず幅広く受け入れて配架します。 □『大衆芸能「コーディネート・相談」』機能 若手演者や市民によるホール利用時を中心に、公演実施や企画制作に関するアドバイス・相談受付(年間5件以上) □『電子大福帳の活用』 全ての主催公演情報の入力(年間230件程度) 「電子大福帳」情報に基づく情報発信(年間1回以上) □『展示事業』 「企画展」の開催(年間3回以上) 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■公演や書籍、DVDなど、大衆芸能に関するさまざまなチラシやポスター等を幅広く受け入れ、2階情報コーナーを中心とした館内に配架・掲出しました。 □『大衆芸能「コーディネート・相談」』機能(年間6件) 貸館公演の落語会開催方法に関する情報提供やアドバイス、施設外で開催される落語会の開催方法に関するアドバイス、学校からの鑑賞事業制作の相談受付などを行いました。 □『電子大福帳の活用』 主催公演情報の入力(年間262件) 「電子大福帳」情報に基づく情報発信(年間2回) □『展示事業』 「企画展」開催(年間で以下5回) <ul style="list-style-type: none"> ・お笑いぱっちり倶楽部寄席写真展 ・長谷川伸とふるさと横浜 ・野毛大道芸フォトコンテスト2013 ・中嶋修・横浜にぎわい座を描く2013 ・大佛次郎と落語 <p>※上記以外にも常設展示を実施</p>

(8) 地域活性化への貢献について

<p>[目指す成果]</p> <p>「野毛地区街づくり会」をはじめとする地域の各種団体と協力・協働し、相互の広報協力・情報発信等を行うこと</p>

で、街のにぎわい創出に貢献します。また、隣接する「みなとみらい地区」への情報発信や協力関係の構築することで、野毛方面への人の流れづくりに寄与します。

[成果についての振り返り]

横浜にぎわい座に来館するお客様や利用者・出演者に「野毛通手形」や「野毛のランチ情報」などを活用して野毛の情報を発信するとともに、野毛地区街づくり会との協力による横浜にぎわい座ポスターの街中掲出、「野毛大道芸」をはじめとする地域イベントへの積極的参画などを通し、街のにぎわい創出に貢献しました。また、みなとみらい地区の在勤者や在住者へのプロモーションを行い、野毛地区への人の流れづくりにも努めています。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>○『地域の飲食店等と連携したプロモーション活動』</p> <p>○(再掲)『野毛大道芸』『野毛まちなかキャンパス』</p> <p>○『みなとみらい地区へのプロモーション活動』</p> <p>地区内の企業間交流団体への参画・企画提供を行います。</p>	<p>■『地域の飲食店等と連携したプロモーション活動』</p> <p>「野毛通手形 SeasonIV」への参加の他、地域の飲食店等と連携した集客・広報活動を実施します。</p> <p>□『野毛大道芸』『野毛まちなかキャンパス』</p> <p>・『野毛大道芸』への展示会場他の提供(1回以上)</p> <p>・『野毛まちなかキャンパス』講座開催(1回以上)、会場提供(2回以上)</p> <p>■『みなとみらい地区へのプロモーション活動』</p> <p>MM c c への参加と連携企画の実施(1回以上)</p>	<p>■野毛地区の飲食店による「野毛通手形」に参加する他、チラシの配布やポスター掲出による相互プロモーションを行いました。また横浜市による「この冬限定！秘密の思い出チケット」に参加しました。</p> <p>□『野毛大道芸フォトコンテスト2013』へ展示会場提供(1回) / 『野毛まちなかキャンパス』における横浜にぎわい座企画の講座開催(2回) および会場提供(1回)</p> <p>■みなとみらい地区在勤者による同好組織、みなとみらいコミュニティクラブと連携し「横浜にぎわい座で寄席体験」を開催。246名の参加者が高座を楽しむとともに、公演前に開催した施設見学会にも約200名が参加し、演芸場を通した野毛地区の魅力発信と、施設利用のプロモーションを合わせて実施しました。</p>

(9) 市の文化政策との連携について(都市戦略との連携)

[目指す成果]		
<p>多様な施設を運営する財団の施設の1つとして、「横濱JAZZプロムナード」や「フェスティバル事業」等への参加や、他の施設や組織との協働等で構築したネットワークを活用することで、横浜市の文化芸術・創造都市施策の実現に貢献します。</p>		
[成果についての振り返り]		
<p>大衆芸能専門施設単館としての運営にとどまらず、財団の他施設や他部署と連携しながらさまざまな事業に積極的に参画し、横浜市の文化政策実現に寄与しました。</p>		
[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●『横濱ジャズプロムナード』</p> <p>○『国際舞台芸術ミーティ</p>	<p>□『横濱ジャズプロムナード』</p> <p>のべ2日間参加。横浜都心</p>	<p>□『横濱ジャズプロムナード』</p> <p>職員1名を会場責任者として2日間派遣し会場運営とボランティアスタッフのとりまとめを担当</p>

<p>ングin横浜2014(TPAM)』 横浜で開催される舞台 芸術の国際的プラット フォームへの参加</p> <p>○(再掲)『野毛大道芸』『野 毛まちなかキャンパス』</p> <p>○(再掲)『横浜市芸術文化 教育プラットフォーム 学校プログラム』</p> <p>●『フェスティバル事業』 横浜のシンボリック事 業として、「オール横浜」 実施が予定されている アート・フェスティバル 事業</p>	<p>部の活性化や市民協働の 推進に寄与します。</p> <p>□『国際舞台芸術ミーティ ング in 横浜 2014(TPAM)』 プログラムへ参加(1公 演)</p> <p>□『野毛大道芸』『野毛ま ちなかキャンパス』</p> <p>・『野毛大道芸』への展示会 場他の提供 (1回以上)</p> <p>・『野毛まちなかキャンパス』 講座開催(1回以上)、会場 提供(2回以上)</p> <p>□『横浜市芸術文化教育プラ ットフォーム 学校プロ グラム』 コーディネートの実施 (2校以上)</p> <p>■『フェスティバル事業』 広報面等での協力により、 イベントの盛り上げと賑 わいづくりに協力します。</p>	<p>本年度は、実行委員会側の意向によりのげシャール は会場となりませんでした。他会場への職員の派 遣に加え、横浜にぎわい座においても事業の広報等 を行いました。</p> <p>□『国際舞台芸術ミーティングin横浜2014(TPAM)』 TPAMショーケース公演として劇団マームとジプシ ーによる「Rと無重力のうねり」8公演共催</p> <p>□『第39回 野毛大道芸』 「野毛大道芸フォトコンテスト2013」の展示会場を 提供(1回)さらに「野毛大道芸クイズ&スタンプラ リー」に会場のひとつとして協力しました。</p> <p>□『野毛まちなかキャンパス』 横浜にぎわい座の企画により以下2回の講座開催 「長谷川伸の人生～学ぶこと、教えること～」 「横浜にぎわい座を知る！～野毛の街の演芸場～」 以下1回の講座にのげシャールを提供 「からくりエンターテナー達の大演奏会 ～IKUO三橋の秘蔵品を一部公開～」</p> <p>□『横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プロ グラム』 市内小学校で「落語」のプログラムを実施 (1校/3日間のプログラム/3クラス112名) プロの落語家による落語・小咄の実演とレクチャー の後に、生徒全員が練習、発表を行いました。今年 度の実施校数は、プラットフォーム事務局に寄せら れた落語の希望が少なく実施1校となりました。</p> <p>■『横浜音祭り』 主催興行「高橋キヨ子 民謡のころーお祝い唄～ 北から南一」を横浜音祭り2013広報連携プログラム として参加しました。 期間中の貸館音楽公演にも音祭りへの参加を呼び かけ2公演の参加に繋がりました。</p>
--	---	--

5 施設の運営について

(1) 大衆芸能専門館としての顧客満足度の高い運営の実現について

[目指す成果]

子どもたちの素朴な疑問から、演芸関係者の問い合わせにまで、幅広く対応可能な大衆芸能よろず相談所的役割を果たし、同時に教育機関との連携など社会的要請にも対応し、大衆芸能文化の振興拠点としての機能を発揮します。また、大衆芸能への親近感を高め、幅広い方々に気軽に楽しんでいただけるよう、「横濱の笑いの殿堂」としての雰囲気作りと、高座舞台の高揚感へと誘うような対応に努め、支持層を拡大します。

<p>[成果についての振り返り]</p> <p>これまでの施設運営を通して蓄積されたノウハウや人脈を活かし、大衆芸能に関するさまざまな問合せに対するアドバイスをを行うとともに、アウトリーチ事業としても積極的に参加しました。また、スタッフの親近感ある対応を心掛けるとともに、来館者にお楽しみいただくためのさまざまな工夫にも努めました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門対応能力とアドバイスの向上 ● 大衆芸能独特の魅力あるホスピタリティ向上 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> にぎわい座内外での落語会開催要請に対する相談受付で情報提供とアドバイス(通年)が行われている <input type="checkbox"/> インターンシップ(大学生)、体験学習(中学校生徒)の受入れと実習実施 <input type="checkbox"/> 正面入口牽垂幕、幟の刷新 ■ 季節に応じた館内装飾の実施(隔月以上) ■ 市民や学校などの団体向けに初心者向け講座またはバックステージツアー開催(共催を含み年2回) 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 落語会の開催方法や出演者の依頼方法に対する一般からの問い合わせにアドバイスを随時行った他、貸館主催者の落語会開催にあたっては主催興行で培ったノウハウを元に支援を行いました。 以下の公演については制作にも関わりました。 <ul style="list-style-type: none"> ・桂歌丸独演会(そごう美術館/1回) ・にぎわい&にしよこ寄席(生活創造空間にし/2回) ・銭湯寄席(本牧ゆあそび館/3回) <input type="checkbox"/> 大学生インターンシップ受け入れ1回4名 中学生体験学習受け入れ1回1名 にぎわい座の窓口業務や小ホール主催公演の準備作業等に携わる経験を提供しました。 <input type="checkbox"/> 幟の補修と、建物正面の懸垂幕の刷新を行いました。 ■ 館内各所に季節に応じた装飾(毎月更新)を施した他、2階情報コーナーへの大衆芸能情報の展示・配架、銭湯へ行こうコーナーの設置、歌丸館長等身大パネル記念撮影コーナーの運営など館内の楽しい雰囲気づくりに努めました。 ■ みなとみらい地区在勤者の同好組織を対象とした寄席体験会や施設見学会の実施、横浜商科大学と連携した『野毛まちなかキャンパス』における講座開催、『寄席体験プログラム』や学校向け貸切公演を通じた青少年対象の講座と落語会実施、夏の寄席文字講座開催など、大衆芸能の魅力に触れていただくことを通し、支持層の拡大に取り組みました。 <input type="checkbox"/> 前項の中でバックステージツアー2回開催

(2) 施設の利用促進、利用開発による利用率向上について

<p>[目指す成果]</p> <p>現行の利用料金体系を基本としながら、公演スタイルに合わせた利用促進(共催など)の取組みがなされ、シャープレ(小ホール)の稽古場利用促進や、制作室の創作活動利用をバックアップし、市民創造活動に貢献しているとともに、各室場が有効に活用されます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>さまざまな利用促進策を実施した結果、達成指標の目標利用率には及ばなかったものの、芸能ホール、のげシャープレ、制作室の利用率、および利用料金収入が前年度を上回りました。</p>
--

また、野毛地区街づくり会との共催事業をはじめ、TPAM、オフサイト・ダンス・プロジェクト、野毛まちなかキャンパスなど前年以上に充実した共催事業を実施しました。

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホールセールスの展開 施設案内リーフレットを活用し 新たな顧客層への施設周知と利用促進提案 ●施設別(利用)促進策の展開 芸能ホールを中心に、制作室の利用拡大 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □開館日数 341日(休館日月2回の施設点検) □目標利用率 芸能ホール：85% のげシャレ：65% ※利用可能日に対する稼働率 練習室：80% 制作室：50% ※利用可能時間帯に対する稼働率 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □開館日数 341日 □利用率 芸能ホール：78% のげシャレ：63% ※利用可能日に対する稼働率 練習室：63% 制作室：37% ※利用可能時間帯に対する稼働率 ■施設見学会の実施、分かり易くまとめた施設リーフレットの配布、Webサイトによる利用情報や施設空き情報の発信、稽古場検索サイトへの情報投稿等により、新規利用者の獲得に努めると共に、利用者には、次の利用に繋がるよう丁寧に説明や提案を行いました。 ■少人数の会議や出演者の多い公演の楽屋として、また公演準備のためのスペースとして、制作室の活用を利用者に提案しました。
---	---	---

(3) ニーズに基づくサービスについて

<p>[目指す成果]</p> <p>公演来場者へのアンケートを通してお客様のニーズを的確に把握して、施設運営および管理面におけるサービス改善とホスピタリティ向上に努め、施設に対する顧客満足向上を実現します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>主催の全公演で実施したアンケートや2階展示コーナーに設置した来館者アンケートに記載されるご意見ご要望、および公演来場者や施設利用者からスタッフに直接寄せられるさまざまなご意見ご要望を、施設内で共有するとともに状況を確認し、対応が必要な事案に迅速に対応しました。</p> <p>また、お客様が来館して楽しくなる雰囲気作りの一環として、オリジナルグッズの作成販売や、その他楽しいグッズの仕入販売を行いました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多角的ニーズの把握、分析 ●新たなサービス開発、提供 ●苦情処理への対応とその反映 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自主事業公演へアンケート挟み込みを実施 ■要望に対する対応や改善取組みについて ホームページや館内掲示等での顧客への回答 ■オリジナルグッズ開発、判りやすい案内標示 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■すべての自主事業公演でアンケートを実施 ■アンケート等で寄せられたお客様のさまざまなご要望にきめ細かく対応。 対応例： <ul style="list-style-type: none"> ・場内飲食マナーに関する注意書の掲示 ・他のお客様に迷惑となる来場者への対応 ・荒天により来場できないお客様へのチケット振替対応およびホームページでの発信

		<ul style="list-style-type: none"> ■お客様のご意見に対する回答を館内に掲示 ■有名会のプロモーションを兼ねた「有名会手ぬぐい」を発売
--	--	--

(4) 広報の取組みについて

<p>[目指す成果]</p> <p>昨年度の開場十周年期間に蓄積したプロモーション手法やネット経由の発信力の強化などにより、横浜にぎわい座の魅力や価値の認知度を向上させます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>昨年度リニューアルしたWebサイトの活用につとめました。比較的若い顧客層を対象に想定しつつ、ツイッターや動画も併用しながらWebサイトよりさまざまな発信を行いました。上半期に取り組んだ長谷川仲関連事業では、新聞各紙本社文化部の演芸担当者と改めて関係を深めるとともに、活用可能なさまざまな媒体の情報を整理し、横浜にぎわい座の情報発信力を高める機会としても活用しました。みなとみらい地区に勤務するサラリーマン層を対象とした落語会を開催し、参加者幹事と、近隣地域に勤務する方々に訴求力のある落語会のあり方や、有効なプロモーションについて意見交換を行いました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●Web サイトからのPRと発信する情報の充実</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□Web サイトへのアクセス数の向上 (施設ページビュー数の前年比5%増)</p> <p>□情報発信の充実 (公演情報等の月30回以上の発信)</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■昨年度末にリニューアルしたWebサイトの機能活用に努め、さまざまな情報を即時性とともに関心しました。</p> <p>□施設ページビュー数 前年比53.4%増</p> <p>□9月よりWebサイトと関連付けながらツイッターを開始し、約400のフォロワーを得ました。</p> <p>□公演情報等の発信回数 月平均36回</p> <p>■荒天時の公演開催情報の発信など、緊急時にもWebサイトを活用し、お客様に必要な情報を即時性を持って発信しました。</p>

利用状況等について

施設名	25年度	
	稼働率	利用者人数
芸能ホール	78% (74%)	64,790人
小ホール	63% (45%)	19,089人
練習室	63%	4,051人
制作室	37%	1,412人
合計		89,342人

※稼働率：日にち単位（時間帯単位）

6 施設の維持管理について

(1) 安全・安心・快適な施設の維持管理について

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 快適な環境維持について ● 施設の安全確保について 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 管理者側責任による施設面での人身事故年間『ゼロ』を実現。 □ お客様アンケートにおける、施設“快適評価”4.5点の達成。 □ サービス介助士2級取得者が常勤スタッフ中1名以上在籍。 ■ 所管局と施設・設備の維持管理に関して情報を共有し、優先度に応じた修繕対応。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 管理者側責任による施設面での人身事故年間『ゼロ』 □ お客様アンケートにおける施設“快適評価”4.43 □ サービス介助士2級取得者常勤スタッフ中5名在籍 ■ 横浜市による大規模更新への対応、小破修繕への迅速な対応、歩道工事（管理区域外）の影響確認など、安全第一を念頭に施設を維持管理。 ■ 大震災を想定して防災計画を再改定するとともに対応能力向上を念頭に置いた訓練を実施。 ■ AED研修をにぎわいスタッフを含む全職員対象に実施。 ■ 台風や雪などの荒天時の施設利用については、施設利用はもちろん、主催公演についても利用者に配慮した対応を実施。
--	---	--

(2) 施設予防保全への取組みについて

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 館内日常的整備点検と施設管理会社との管理業務確認のための定例ミーティング ● 建物所有者理事会との調整・連携強化 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 建物総合管理業務委託先との定例ミーティングを開催、情報交換と確認。(毎月1回) □ 管理組合理事会への参加と情報共有。(毎月1回) 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毎月1回の定例ミーティングで委託先の東急コミュニティと業務の進捗確認と情報交換。 □ 毎月1回の管理組合会合へオブザーバーとして出席し管理組合との連携強化および情報共有。
---	--	---

(3) その他管理(保守点検)に関する実施業務（第三者に委託して実施するもの）

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物総合管理業務 ● 舞台技術業務 ● 舞台機構・音響設備・舞台照明設備各保守点検業務 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門業者に委託し、関係法令ならびに指定管理業務の基準に従って適切に管理運用。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 建物総合管理業務、舞台機構・音響設備・舞台照明設備各保守点検業務を東急コミュニティに委託し、月1回の定例ミーティングをはじめ、日常的に業務遂行状況を管理監督。 ■ 舞台技術業務を横浜アーティストに委託し、日々の舞台技術業務を通して実施状況を管理監督。
---	--	---

7 収支について

(1) 経費削減及び収入増加策について

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経費削減について経費執行について、適正 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 積極的な経費節減策と収入増加策への取組み 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ にぎわいスタッフの配置人件費や光熱水費、委託費等の節減により管理経費を押えました。
---	--	--

<p>な運営が可能な範囲で業務委託先、金額について見直し</p> <p>●収入増加策について 主催事業の販促広報活動強化、貸館事業における新規割引制度導入によるホールセールスの強化を推進</p>	<p>により、収支差額ゼロ以上の達成</p> <p>□来場者数拡大による入場料収入や、利用料金収入の増加 (24年度比で50万円増見込み)</p>	<p>□施設利用率向上に努め、平成24年度比で69余万円増の収入を得ましたが、予算額達成には今一步及びませんでした。</p> <p>■主催公演の収支改善に取り組み、出演料を含む経費を圧縮しながら販売促進に努めましたが、予算どおり収入を伸ばすことができませんでした。</p> <p>□収支差額ゼロ以上：未達成</p>
---	---	---

8 収支決算額について

収支決算書

(単位：円)

平成25年度 横浜にぎわい座収支報告書

収入	項目	予算額	決算額	差異(決-予)	備考
	指定管理料	190,901,000	190,901,000	0	横浜市より
	利用料金収入	19,500,000	19,227,000	▲ 273,000	
	事業収入	143,650,000	122,889,304	▲ 20,760,696	
	その他収入	1,388,000	2,164,696	776,696	
	合計	355,439,000	335,182,000	▲ 20,257,000	
支出	項目	予算額	決算額	差異(決-予)	備考
	人件費	89,177,000	88,918,500	▲ 258,500	職員9+アルバイト
	管理費	115,620,000	114,790,140	▲ 829,860	施設管理委託費ほか
	事業費	134,866,000	129,342,114	▲ 5,523,886	
	事務費	15,776,000	15,638,183	▲ 137,817	
	合計	355,439,000	348,688,937	▲ 6,750,063	
	当期収支差額	0	▲ 13,506,937	▲ 13,506,937	